

10 「協働・協創」・「SDGs」

-
- (1) 「協創」の認知
 - (2) 協働・協創の実践
 - (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価
 - (4) SDGsの認知状況
 - (5) SDGsの関心状況
-

10 「協働・協創」・「SDGs」

（1）「協創」の認知

問43 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。
あなたは、この「協創」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

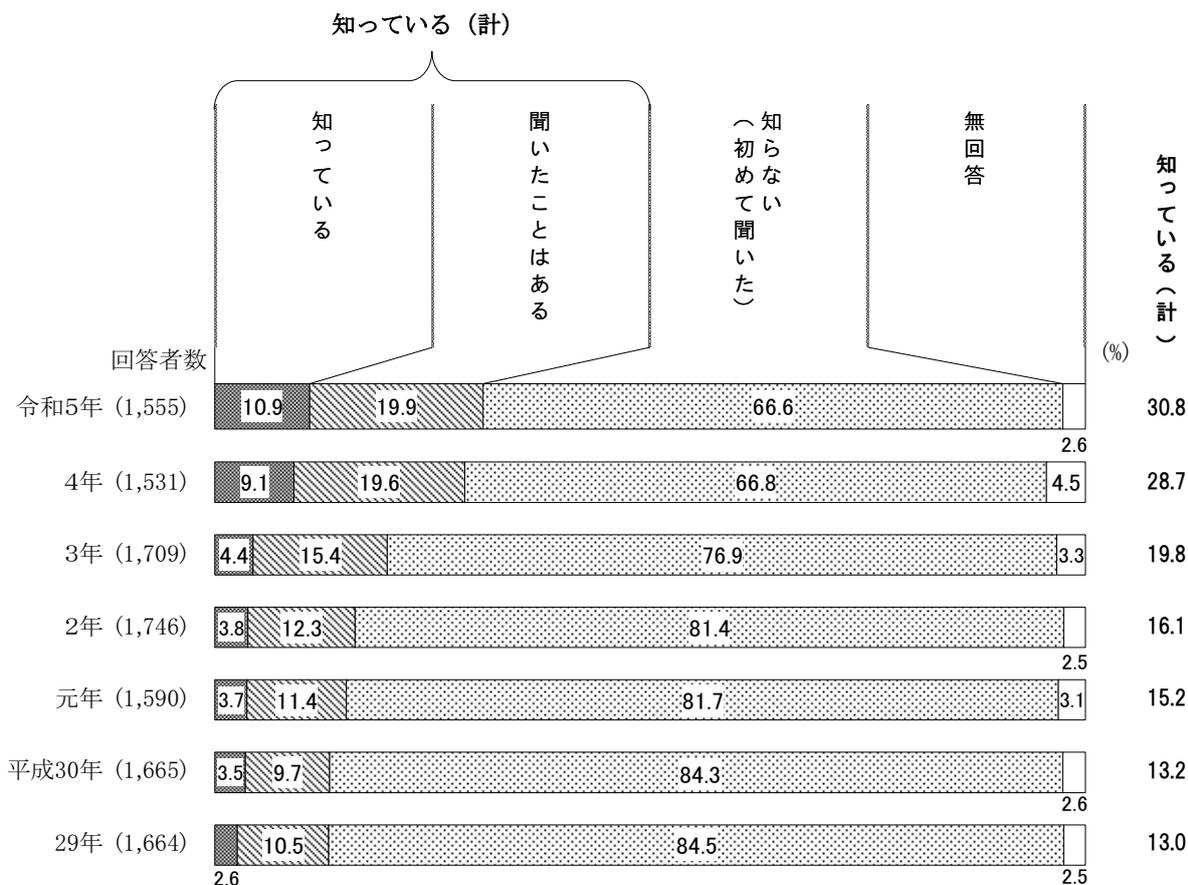
■【知っている】は、調査開始以降1割台で漸増し、前回調査で2割台、今回3割へと上昇

ア 単純集計・経年比較／「協創」の認知

（ア）「協創」について「知っている」が10.9%で、これに「聞いたことはある」（19.9%）を合わせた【知っている】は30.8%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は66.6%を占めている。

（イ）前回調査との比較では、【知っている】は微増となっているが、3年前の令和2年度調査時の16.1%に比べると倍増となっている。

図10-1-1 経年比較／「協創」の認知

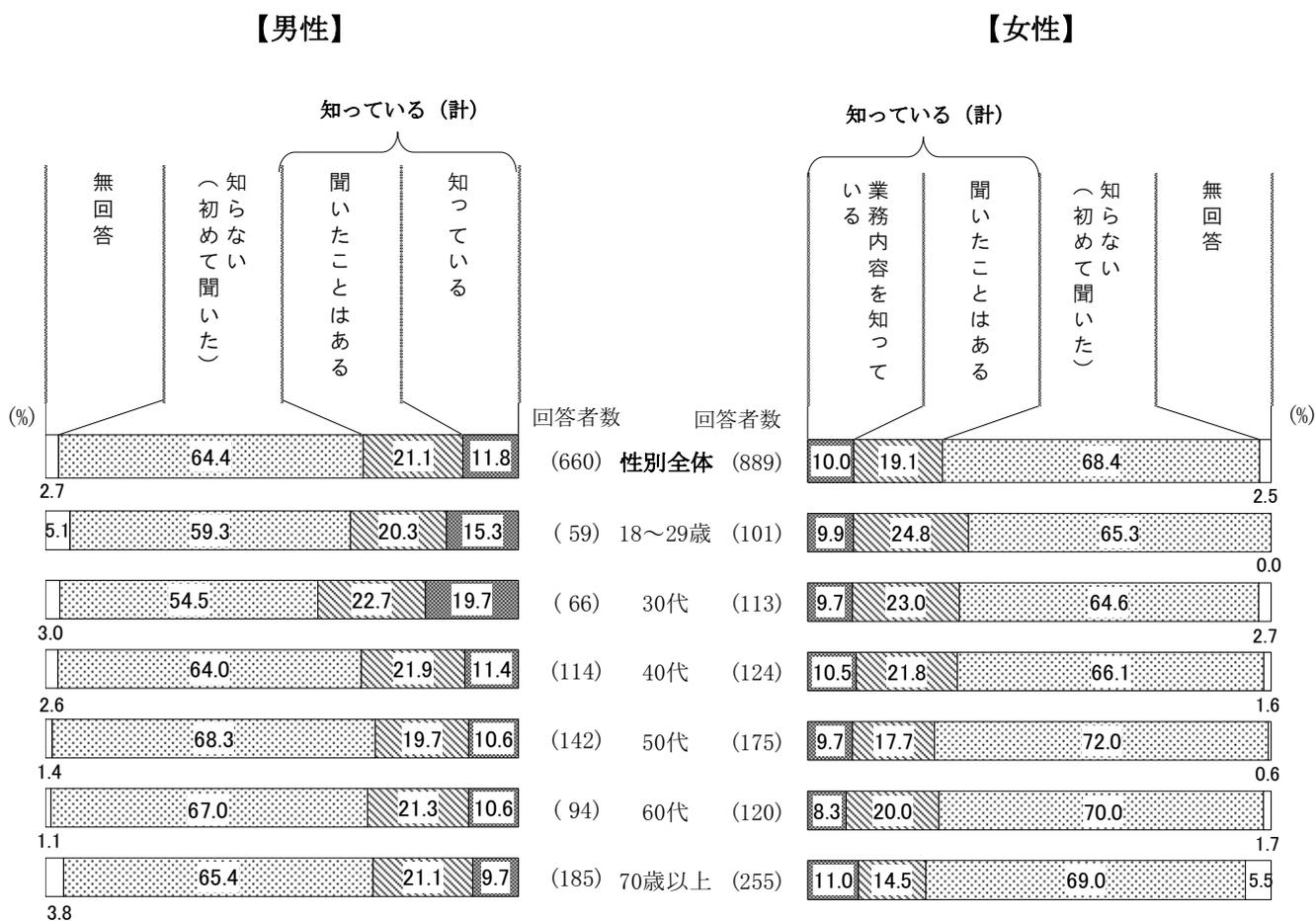


イ クロス集計・性別、性・年代別／「協創」の認知

(ア) 性別で見ると、【知っている】は男性（32.9%）の方が女性（29.1%）より3.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、男性の30代で42.4%と特に高く、次いで男性の18～29歳（35.6%）、40代（33.3%）と女性の18～29歳（34.7%）が3割台半ばで続いている。逆に、女性の70歳以上で25.5%と最も低くなっている。

図10-1-2 性別、性・年代別／「協創」の認知



（2）協働・協創の実践

問43で「1 知っている」とお答えの方に

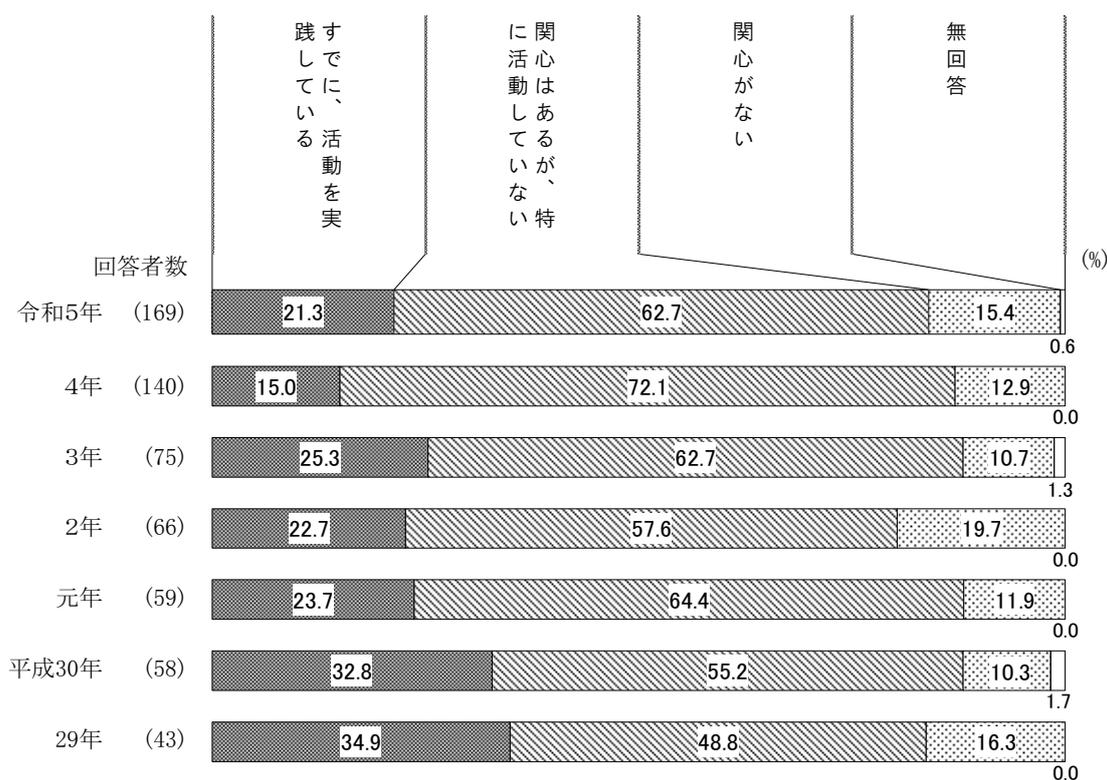
問43-1 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）
（○は1つだけ）。

■ 「すでに、活動を実践している」が6.3ポイント増加し2割超

ア 単純集計・経年比較／協働・協創の実践

- （ア）「協創」を「知っている」という人の実践状況をみると、「すでに、活動を実践している」が21.3%で、「関心はあるが、特に活動していない」が62.7%で最も高くなっている。
- （イ）「協創」を《知っているが、関心がない》は15.4%となっている。
- （ウ）経年での比較では、「すでに、活動を実践している」は前回（15.0%）1割台半ばまで減少したが、今回調査で再び2割台となった。

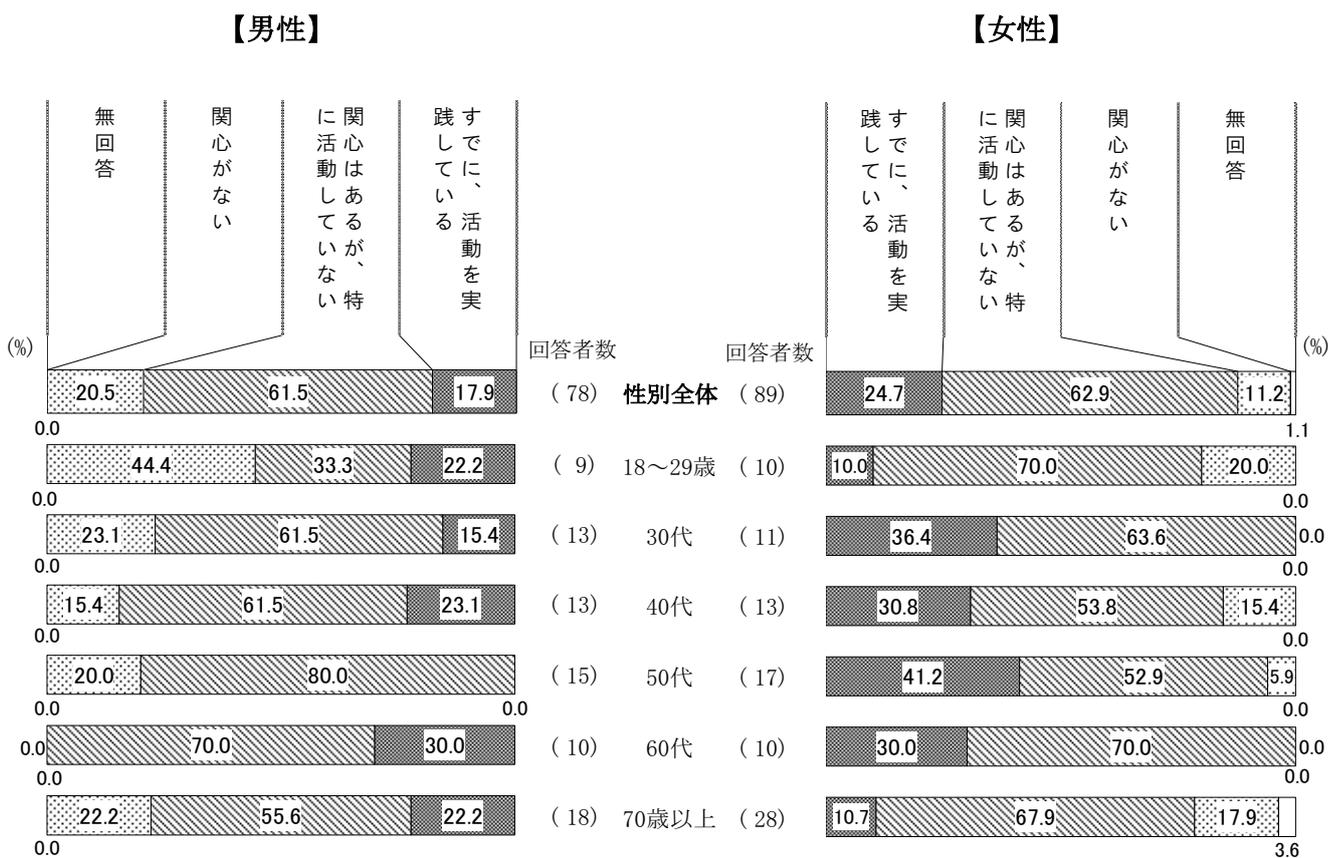
図10-2-1 経年比較／協働・協創の実践



イ クロス集計・性別、性・年代別／協働・協創の実践

- (ア) 性別で見ると、「すでに、活動を実践している」は女性（24.7%）の方が男性（17.9%）より6.8ポイント高くなっている。
- (イ) 「関心がない」は男性（20.5%）の方が女性（11.2%）より9.3ポイント高くなっている。
- (ウ) 性・年代別では、すべての性・年代層でサンプル数が30未満のため、参考のために図示のみとし、コメントは割愛する。

図10-2-2 性別、性・年代別／協働・協創の実践



（3）区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

問44 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）
（○は1つだけ）。

■【そう思う】（2割台半ば）が【そう思わない】を上回っているものの、「わからない」が5割

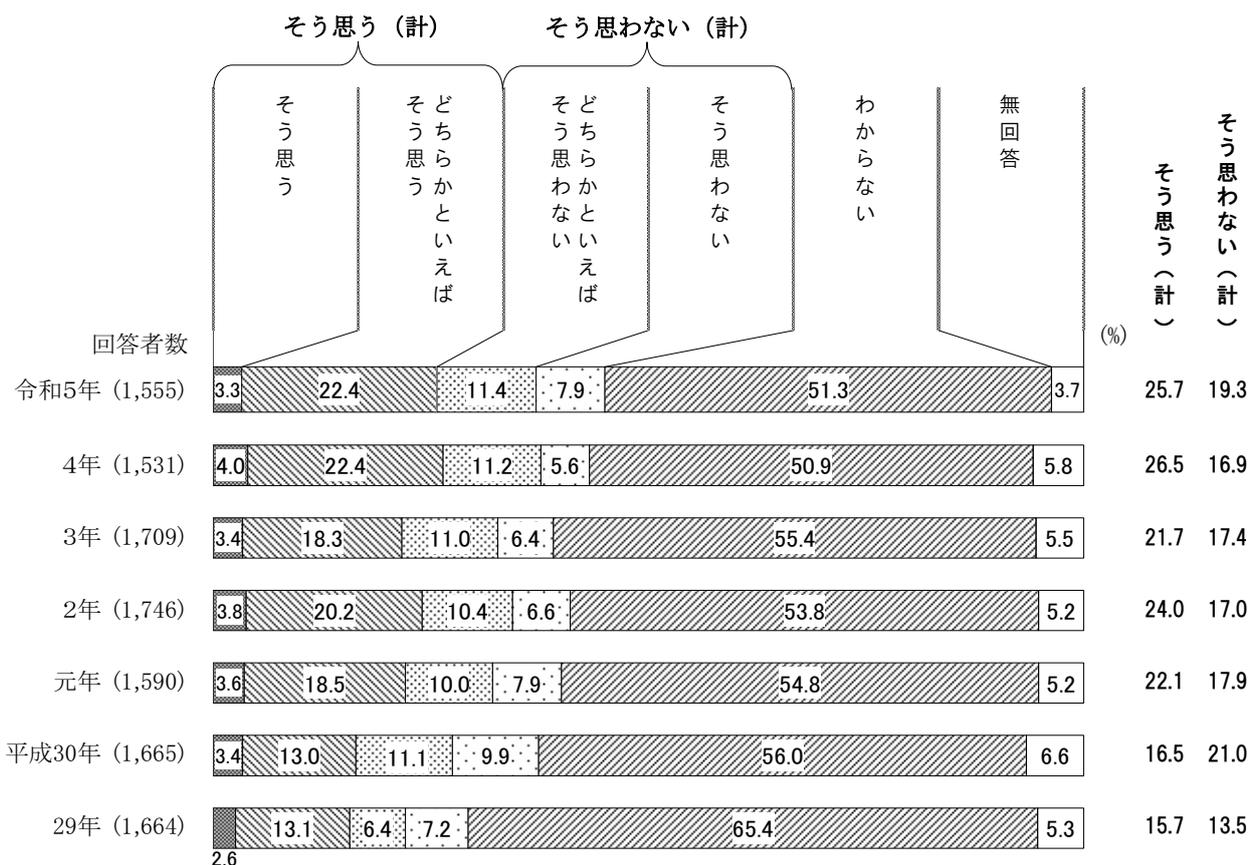
ア 単純集計・経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

（ア）協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」が3.3%で、これに「どちらかといえばそう思う」（22.4%）を合わせた【そう思う】は2割台半ばとなっている。

（イ）「どちらかといえばそう思わない」（11.4%）と「そう思わない」（7.9%）を合わせた【そう思わない】は2割弱となっている。一方、「わからない」（51.3%）が全体の過半数を占めている。

（ウ）前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図 10-3-1 経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



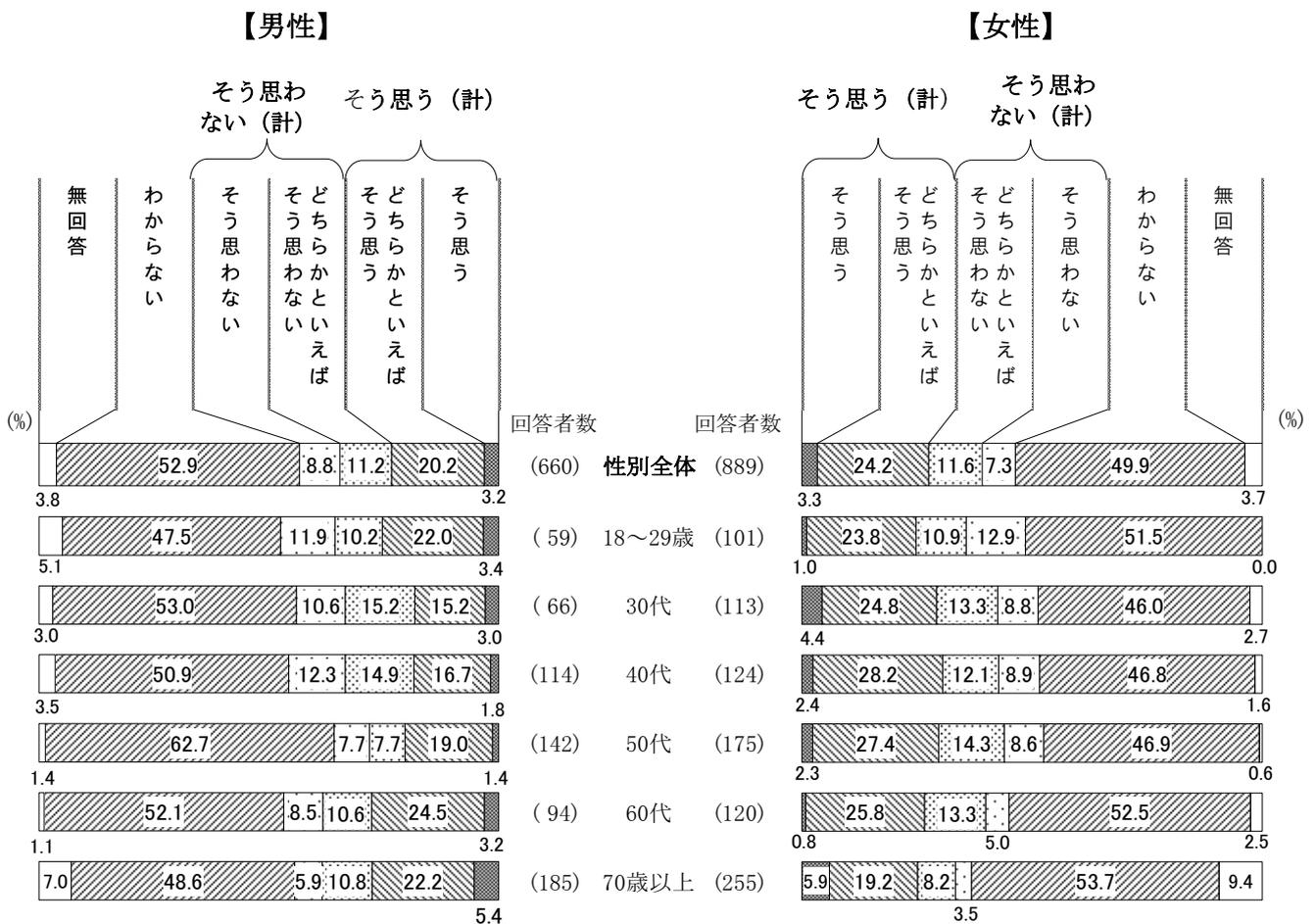
※ 平成30年度の設問文は「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、令和元年度には設問文の一部の表現が変わったうえに、「子どもの貧困対策」が追加挿入されたが、令和2年度では、更に設問文の一部が、上記設問のように変更された。

イ クロス集計・性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

(ア) 協働や協創による事業が進んでいると感じるかについて性別でみると、【そう思う】は女性（27.4%）の方が男性（23.3%）より4.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は女性の40代で30.6%と最も高く、僅差で、女性の50代と30代が約3割で続いている。一方、【そう思わない】は男性の40代で27.2%と最も高く、次いで、男性の30代が2割台半ばで続いている。

図10-3-2 性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



(4) SDGsの認知状況

問45 あなたは、SDGsについて知っていますか（〇は1つだけ）。

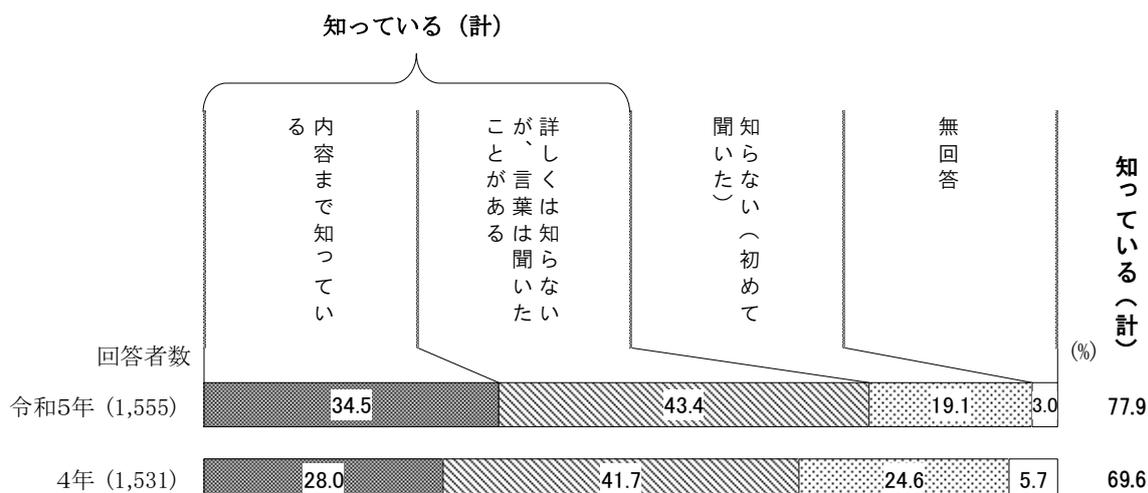
※ 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

■ 「内容まで知っている」が3割台半ば、【知っている】も7割台半ば超と上昇

ア 単純集計・前回調査比較／SDGsの認知状況

(ア) SDGsの認知については、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が43.4%で最も高く、これに「内容まで知っている」(34.5%)を合わせた【知っている】は7割台半ば超となっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」は19.1%となっている。
 (イ) 前回調査との比較では、「内容まで知っている」は6.5ポイント増加し、【知っている】でも8.3ポイント高くなっている。

図10-4-1 前回調査比較／SDGsの認知状況

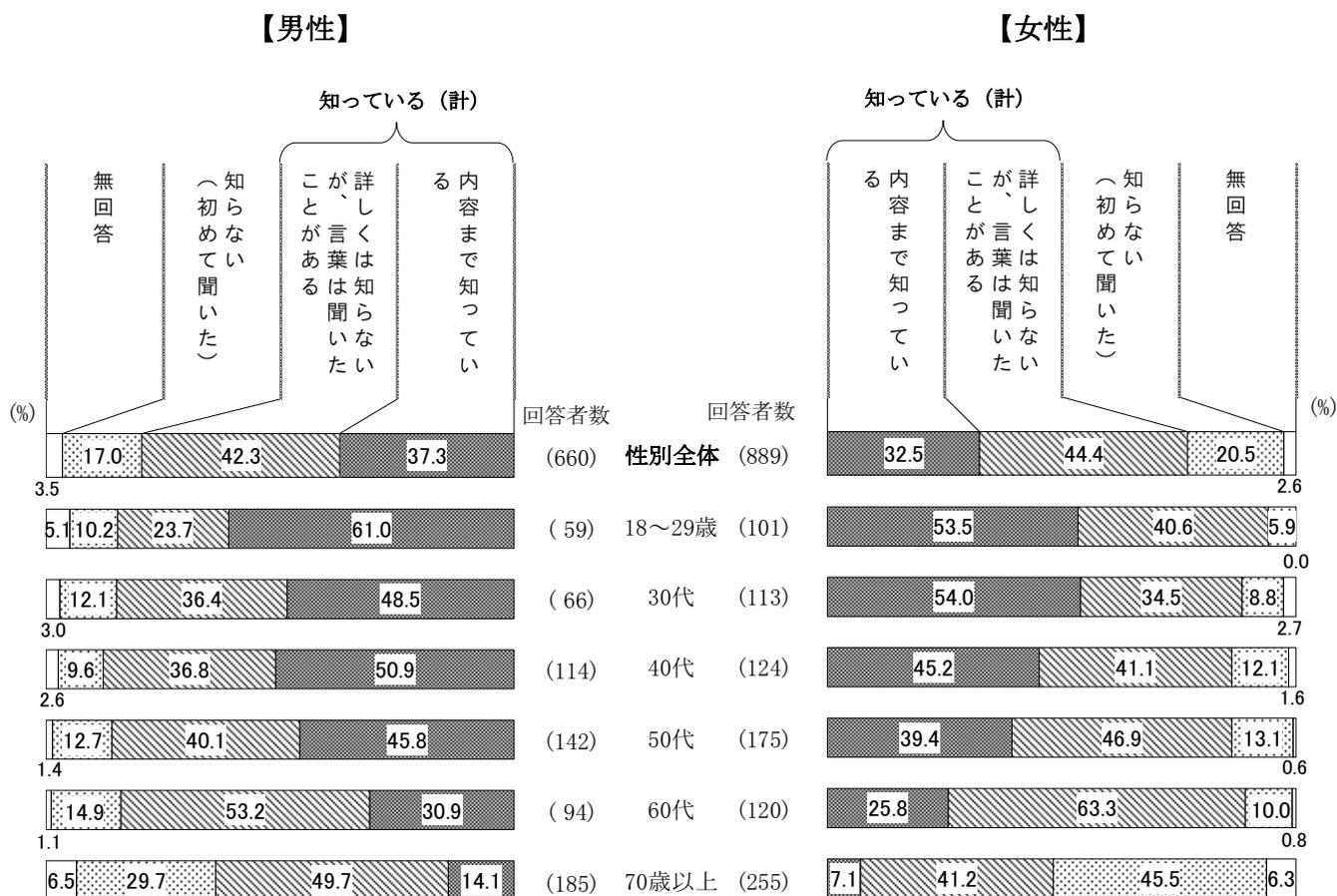


イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの認知状況

(ア) SDGsの認知について性別で見ると、「内容まで知っている」は、男性（37.3%）の方が女性（32.5%）より4.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「内容まで知っている」は、男女ともにおおむね年代が下がるほど認知割合が高くなっており、男性の18～29歳で61.0%と最も高く、女性の70歳以上で7.1%と最も低くなっている。

図10-4-2 性別、性・年代別／SDGsの認知状況



（5）SDGsの関心状況

問46 あなたは、SDGsに関心がありますか（○は1つだけ）。

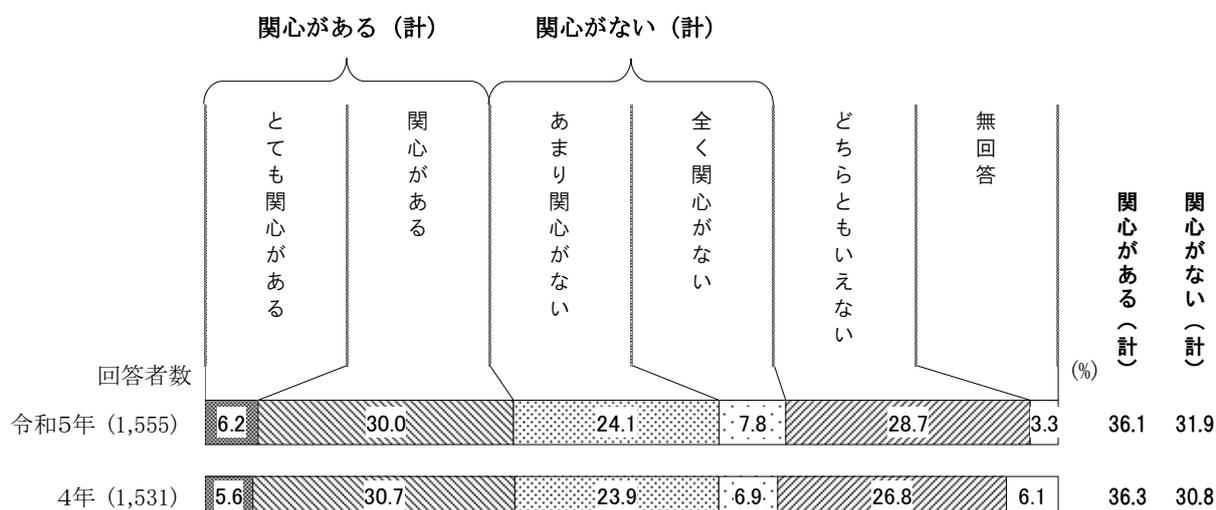
■【関心がある】が3割台半ばで、【関心がない】の3割強を上回る

ア 単純集計・前回調査比較／SDGsの関心状況

（ア）SDGsへの関心状況については、「関心がある」が30.0%で最も高く、これに「とても関心がある」（6.2%）を合わせた【関心がある】は3割台半ばとなっている。一方、「あまり関心がない」（24.1%）と「全く関心がない」（7.8%）を合わせた【関心がない】は3割強となる。また、「どちらともいえない」は28.7%となっている。

（イ）前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図10-5-1 前回調査比較／SDGsの関心状況



イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの関心状況

(ア) SDGsの関心状況について性別で見ると、【関心がある】は、女性（37.5%）の方が男性（34.4%）より3.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【関心がある】は、女性の50代が47.4%で最も高く、次いで、女性の18～29歳（45.5%）と30代（45.1%）が4割台半ばで続いている。一方、【関心がない】は、男性の30代が51.5%と特に高く、次いで、男性の18～29歳（40.7%）と60代（40.4%）で4割となっている。

図10-5-2 性別、性・年代別／SDGsの関心状況

